

第2号



こうみょうだより

発行：社会福祉法人多摩養育園
編集：光明保育園 園長会

題字：園児

令和2年2月15日発行



もくじ

- 学びの芽生え 「遊びの中での学び(色、数、量、形、文字、記号)」
- 健康 「午睡について考えよう！」
- 和のこころ 「煎茶道」
- 地域の大きな家 「地域にささえられて」



子ども達は、身の回りの様々なものに興味を示し、その子なりのやり方で関わろうとします。「乳児期から子どもが主体的に周囲の人や物にかかわる姿を大切にする」ことが重要で、この姿を『学びの芽生え』といいます。保育者は、子どもの行動や発する言葉をよく観察し、今何に興味関心を抱いているのか考えながら、環境作りの工夫を繰り返しています。さて、遊びの中での学び、教育要素である「色、数、量、形、文字、記号」など、どの様にして子ども達は獲得していくのでしょうか。

『知りたい!』思いが成長に 数や文字に密接しているカードゲーム、人数を割ったり多い少ないを意識したりする鬼ごっこ、絵で見て何を示しているかが分かる標識など。普段の遊びの中で、文字や数、形や大小などに気づき、波紋のように異年齢の子ども達の生活の中へと広がっていきます。得た知識を使える場面を探す様子は見ていて頼もしいです。お互いにライバルであり、先生であり生徒であり『知りたい!』という思いが、自分たちを成長させています。秋から冬にかけて、急にそのような場面が多くみられるようになり、年度末に向かって成長をより濃く感じる日々です。



『すうじのうた』から発音と形に興味を持った3歳児。声や体で数字を表現する子ども達の様子から遊戯会では数字の歌を発表。そして、今度はこちらから大きい小さいに興味関心が持てるような仕掛けを保育者が練っています。

保育者のここが Point!

子どもが関心を示した事を見逃さずにキャッチ! 発表という形で獲得した力を取り入れ、更に次の気づきや学びに向け常に環境構成を考えています。



この時期人気の『かるた』。絵や色で選んでいた札も、文字で選び、内容を理解して取れるように。大人も負けてしまう勢いです。



集中して文字を書く5歳児。文字を書けるようになりたい4歳児。様子を真剣に見つめています。

色・数・量への気づき 保育者が意図的に作る環境や子ども達の自由な遊びの中で、色や数への気づきの瞬間があります。その気づきから遊びがどんどん膨らんでいった事例を紹介します。やり取りの最初は子どもから。保育者は子どもの姿に反应的に関わりながらそのやり取りを深めていきます。



果物の絵本を見ていた子の周りに友だちが集まってきた。「いちご」「あか」など、果物と色をむすびつけて、話をしながら、友達と絵本を楽しむ。



一緒に遊ぶ友達に、「赤、青、青、青、赤だよ」と電車の並びを教える。「荷物を載せよう!」と荷台には、それぞれ同じ量の砂を。



子どもたちが色に興味を示していることから誕生会で色水マジックを。そして、ままごとコーナーには色水のボトルを。

保育者のここが Point!

色水のボトルには果物のイラストをあえてつけなかった。イラストがないことで、保育者や友だちと何だろうと考えたり、やり取りしたりすることが楽しめた。すべてを視覚で表さなくても、子どものイメージで遊びが広がっていくことを改めて実感。



保健室からこんにちは



午睡について考えよう！ 子どもの就寝時間の後退と睡眠時間の減少が問題視される中、午睡が必要か議論されています。日本家政学会誌の報告によると3歳約4割・4歳約7割・5歳約8割が午睡をしなくなっていることや就寝時間の後退は午睡による影響もあると示されています。保育指針による「適度な休息」の在り方について考えてみます。

午睡:「お昼寝」と同じ意味です。

保育園ではどんな生活？ 適度な休息って？

朝、元気に登園してくる子ども達

いつも元気な子ども達ですが、朝から疲れている様子の子やなんだか眠そうな子もいます。昨夜は寝る時間が遅かったのかな？



一日の大半を過ごす保育園。

眠い時、疲れた時、子どもにもゆっくりしたいなと思う時があります。布団やソファでくつろぎスペースを。



日中は、心も身体もフル活動！！
思いっきり遊び、給食もモリモリ！みんなで食べると美味しいね。

午睡の時間 ～お腹もいっぱいになり、そろそろ眠くなる時間～

保育園に通っていた保護者の皆様は、「お昼寝をしなくてよく怒られたなあ」なんて思い出もあるのではないのでしょうか。大人になると毎日お昼寝があるなんてうらやましいですね。



午睡時間はおおよそ1時間半～2時間くらい。でも、年少児だから眠いだろう、年長児だから全く寝なくて大丈夫とかではなく、生活リズムや登降園時間、体力などの違いから、その子によって、またその日によっても違います。



寝ている友達もいるので静かに過ごすことも大切な約束

こんな工夫から自分の体を知るきっかけに 時間になったからと言って、一律に全員寝かせるのではなく、眠れない時には絵本やお絵かきなど、ゆっくり遊んで過ごす場所や時間を確保。

自分で選択することで「今日は疲れたから寝ようかな」「昨日お昼寝しなくて眠くなっちゃった」等、自分の体力や体のことを考える力にもつながっていきます。

健康のためには質のいい睡眠を！ 「睡眠」の意義は、疲れを取り除くためだけではありません。深夜0時以前に成長ホルモンが多く分泌されたり、「夢」によって記憶の定着がされたり、睡眠中に消化吸収が活発に行われることなどが、研究で明らかになっています。非常に大切なのは眠りの質。1日の流れの中でのお昼寝の位置づけを考え、**就寝前にテレビやDVD、スマートフォンなどの画面を見ることは、心が高ぶったり目が疲れたりするので極力避けましょう。**夜9時には就寝し、朝7時前後には起床する生活が健康的と言われています。

和のこころ 「おいしいお茶をどうぞ」 煎茶道

お茶は好きですか？「私はペットボトル派」「家ではあまりお茶は飲まないかな」など、今は飲み物も様々。急須を使うことが少なくなり、急須とやかんの違いを判らない学生もいるとか…。光明保育園の和の保育方針の一つ「礼節」では、日本が昔から大切にしてきた「礼儀」と「節度」、人とのつながり、生きていくために大切な事を、体験を通して学びます。今回は、その取り組みの一つ煎茶道をご紹介します。始めは、ままごとで保育者や友達とお茶を煎れる真似から。年長児になると実際に急須や湯飲みを使ってお茶を煎れます。

いつも来て下さるボランティアさんや友達へ。「とっても美味しいわ」「ありがとう」と言われ嬉しそうな笑顔を見せる子ども達。お茶を煎れ、ふるまうことを通じて、相手の気持ちに寄り添い、思いやる、おもてなしの心を育みます。子ども達がふるまうお茶を飲みには是非一度保育園へいらしてください！



家でもお茶を煎れたいといって急須を買いました。こんなことも出来るようになったんだあって嬉しく思います。

(5歳児・母)



地域の大きな家

地域の支えに感謝 子ども達の活動の下準備をしてくれたり、あそびのコーナーに入って一緒に製作活動をサポートしてくれたりする地域の方々。「ここは押さえたほうが上手いくんだよ」などと、子どもの気持ちを一番に考えて必要な時に助けてくれます。そんな地域の方の温かい雰囲気子ども達は大好き。「この前あそこで会ったよね」「そうだね、手を振ってお話をしたのよね」と、保育園で築かれた関係が地域でも繋がっているようです。地域の皆様のご支援に感謝すると共に、そんな素敵な関係がこれからも増えていきますように！



地域のお茶会から広がった関わり お茶会を通して地域との交流は深まり、地域の中で保育園の存在はずっしりと根を張り、子ども達との関わりはまるで家族のよう。今では「△△ちゃん」と愛称で呼ぶなど、子ども達の日常に於いて、なくてはならない存在になりました。お茶をおもてなしする時、「ありがとうって思いながら渡そうね」と声をかけ合い、子ども達自ら思いやる姿が見られます。「ありがとう」と声をかけられ微笑み合う姿に、地域の方皆が子ども達を見守っている温かい場所だと感じられます。

